



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月7日

上場会社名 東洋紡株式会社
 コード番号 3101 URL <http://www.toyobo.co.jp/ir/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) IRグループ長
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(氏名) 坂元 龍三
 (氏名) 久保田 冬彦

TEL 06-6348-3044

(百万円未満四捨五入)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	257,478	3.3	15,327	41.8	14,360	51.9	6,451	43.1
25年3月期第3四半期	249,292	△3.7	10,806	△24.0	9,451	△23.1	4,507	△13.5

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 10,945百万円 (91.6%) 25年3月期第3四半期 5,714百万円 (△26.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	7.26	—
25年3月期第3四半期	5.08	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	452,717	162,440	32.0
25年3月期	447,445	155,522	30.8

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 144,893百万円 25年3月期 138,024百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	3.50	3.50
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	3.50	3.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	350,000	3.2	22,000	28.8	19,500	25.6	9,500	24.4	10.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	890,487,922 株	25年3月期	890,487,922 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	1,944,246 株	25年3月期	2,039,578 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	888,564,261 株	25年3月期3Q	886,659,057 株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信(添付資料)の3ページの「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、海外においては、中国をはじめとするアジア新興国の成長鈍化、長引く欧州の景気低迷に加えて、米国での量的緩和縮小に対する懸念もあり、先行き不透明な状況が続きました。一方、国内においては、株高や消費税増税前の駆け込み需要などを背景にした堅調な個人消費により、景気は緩やかに回復しました。

このような環境のもと、当社グループは、「環境、ライフサイエンス、高機能で、社会に貢献する価値を、創りつづけるカテゴリー・リーダー」をめざし、特長ある製品を、国内外の市場へ展開し、事業の成長拡大に向けた活動を進めております。当期間においても、「能力増強投資」、「海外展開加速」、「新製品開発」および「資産効率向上」の4つのアクションプランを掲げ、これらのプランに沿った事業活動を進めました。

「能力増強投資」としては、包装用と工業用の両フィルムの生産に対応した新設備を立上げ、ユーザー評価のための出荷を開始しました。「海外展開加速」においては、タイに設立した合弁会社で、共重合ポリエステル樹脂“バイロン”の生産設備の立上げを行い、アジア市場での事業基盤強化に努めました。またブラジルにおいては、自動車市場の拡大とメインユーザーの現地調達に対応すべく、エンジニアリングプラスチックの生産工場の建設を開始しました。「新製品開発」については、特殊な光学特性を持つ液晶向け工業用フィルム“SRF”と神経再生誘導チューブ“ナーブリッジ”の拡販に注力しました。“ナーブリッジ”については、手足への適用症例数が順調に増加し、一部、顔面への適用も開始しています。「資産効率向上」としては、ポリエステルタイヤコード事業からの撤退を計画どおりに進め、12月をもって販売を終了しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績としましては、売上高は前年同期比82億円（3.3%）増の2,575億円となり、営業利益は同45億円（41.8%）増の153億円、経常利益は同49億円（51.9%）増の144億円、四半期純利益は同19億円（43.1%）増の65億円となりました。

セグメント別の概況は次のとおりです。

(フィルム・機能樹脂事業)

当事業は、フィルム事業では、包装用フィルムは苦戦しましたが、工業用フィルムは液晶関連で減速感はあるものの、堅調に推移しました。機能樹脂事業では、“バイロン”が苦戦しましたが、エンジニアリングプラスチックなどの自動車部材用途は好調に推移し、全体として前年同期に比べ、増収増益となりました。

フィルム事業では、包装用フィルムは数量は伸びたものの、原料価格高騰の影響もあり、苦戦しました。工業用フィルムは、第2四半期以降、液晶市場低迷の影響を受けましたが、新製品“SRF”の寄与もあり、堅調に推移しました。機能樹脂事業では、工業用接着剤“バイロン”は回復の兆しがあるものの、中国向け電子部品用途などで苦戦が続きました。エンジニアリングプラスチックの主力である自動車部材用途は、北米向けを中心に好調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は前年同期比71億円（6.8%）増の1,116億円、営業利益は同2億円（3.5%）増の61億円となりました。

(産業マテリアル事業)

当事業は、環境関連で中国市場低迷の影響を受けましたが、生活・産業資材が好調に推移し、また、12月でタイヤコードの事業撤退が完了し、前年同期に比べ、増収増益となりました。

エアバッグ用基布は、北米向けを中心に数量を伸ばしたものの、原料高の影響を受けました。タイヤコードは、事業撤退の影響で大幅な減収となりました。スーパー繊維では、“ダイニーマ”は船舶用ロープ用途を中心に数量を伸ばし、好調に推移しましたが、“ザイロン”は耐熱材料用途などの販売が伸び悩みました。機能フィルターでは、VOC処理装置がアジアでのユーザーの設備投資延期の影響を受け、苦戦が続きました。生活・産業資材では、機能性クッション材“プレスエアー”が好調に販売数量を伸ばし、増収となりました。

この結果、当事業の売上高は前年同期比1億円（0.1%）増の515億円、営業利益は同3億円（7.5%）増の37億円となりました。

(ライフサイエンス事業)

当事業は、医用膜が苦戦したものの、バイオ事業や医薬品製造受託事業が好調に推移し、前年同期に比べ、増収増益となりました。

バイオ事業では、主力製品である診断薬用酵素の販売が国内外で好調に推移しました。メディカル事業では、医薬品製造受託が、注射剤等の案件の順調な推移に加え、新設備の本格稼動もあり、増収となりました。医療機器では、保険適用を受けた神経再生誘導チューブ“ナーブリッジ”が順調に症例数を伸ばしました。機能膜事業では、医用膜は国内外向け共に苦戦しましたが、海水淡水化用逆浸透膜は、サウジアラビアの新規大型案件向けや、既存プラント向け交換膜の出荷が好調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は前年同期比15億円（8.1%）増の196億円、営業利益は同13億円（53.2%）増の38億円となりました。

(衣料繊維事業)

当事業は、前年同期に比べ、減収増益となりました。

スポーツ衣料製品は、円安による海外生産品のコストアップで収益が悪化しましたが、テキスタイルでは、中東向けの特化生地が輸出採算の好転もあり、収益が改善しました。アクリル繊維は、中国向けが堅調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は前年同期比6億円(1.1%)減の567億円、営業利益は前年同期の営業損失7億円から29億円好転し、22億円となりました。

(不動産事業・その他事業)

当事業では、不動産、エンジニアリング、情報処理サービス、物流サービス等のインフラ事業は、それぞれ概ね計画どおりに推移しました。

この結果、当事業の売上高は前年同期比2億円(1.1%)増の181億円となり、営業利益は同0億円(1.9%)減の19億円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

総資産は、前年度末比53億円(1.2%)増の4,527億円となりました。これは、主として、商品及び製品とその他の有形固定資産が増加したことによります。

負債は、前年度末比16億円(0.6%)減の2,903億円となりました。これは、主として、その他の流動負債とその他の固定負債が減少したことによります。

純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金および為替換算調整勘定がそれぞれ増加したことなどから、前年度末比69億円(4.4%)増の1,624億円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の当社グループの連結業績は、概ね予想どおりに推移しており、通期の業績予想につきましては、前回公表しました予想から変更は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,600	18,620
受取手形及び売掛金	74,598	72,595
商品及び製品	43,073	46,675
仕掛品	14,179	16,090
原材料及び貯蔵品	13,757	15,201
その他	12,729	11,411
貸倒引当金	△198	△341
流動資産合計	184,739	180,252
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	46,239	46,582
機械装置及び運搬具（純額）	33,876	36,638
土地	106,202	106,768
その他（純額）	15,956	19,077
有形固定資産合計	202,273	209,066
無形固定資産	1,242	2,744
投資その他の資産		
その他	60,417	62,304
貸倒引当金	△1,226	△1,650
投資その他の資産合計	59,191	60,654
固定資産合計	262,707	272,465
資産合計	447,445	452,717

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	48,452	52,571
短期借入金	51,211	50,277
1年内返済予定の長期借入金	21,815	24,531
引当金	4,036	2,010
その他	39,316	37,161
流動負債合計	164,831	166,550
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	52,278	50,480
退職給付引当金	17,576	18,490
役員退職慰労引当金	379	322
環境対策引当金	1,771	1,579
その他	35,088	32,855
固定負債合計	127,093	123,726
負債合計	291,923	290,277
純資産の部		
株主資本		
資本金	51,730	51,730
資本剰余金	32,239	32,239
利益剰余金	21,568	24,721
自己株式	△295	△269
株主資本合計	105,242	108,420
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,815	4,830
繰延ヘッジ損益	△72	△17
土地再評価差額金	41,422	41,422
為替換算調整勘定	△11,384	△9,762
その他の包括利益累計額合計	32,782	36,473
少数株主持分	17,498	17,547
純資産合計	155,522	162,440
負債純資産合計	447,445	452,717

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	249,292	257,478
売上原価	197,440	200,267
売上総利益	51,852	57,211
販売費及び一般管理費	41,046	41,884
営業利益	10,806	15,327
営業外収益		
為替差益	220	981
その他	3,046	2,770
営業外収益合計	3,267	3,751
営業外費用		
支払利息	1,442	1,235
退職給付会計基準変更時差異の処理額	1,179	1,179
その他	2,001	2,303
営業外費用合計	4,622	4,717
経常利益	9,451	14,360
特別利益		
負ののれん発生益	—	595
その他	345	80
特別利益合計	345	675
特別損失		
固定資産処分損	651	1,116
投資有価証券評価損	601	—
構造改善関係費	—	1,138
訴訟関連損失	1,036	1,292
その他	227	719
特別損失合計	2,515	4,265
税金等調整前四半期純利益	7,282	10,770
法人税等	2,241	3,558
少数株主損益調整前四半期純利益	5,041	7,212
少数株主利益	534	761
四半期純利益	4,507	6,451

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	5,041	7,212
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	907	2,016
繰延ヘッジ損益	23	55
為替換算調整勘定	△268	1,608
持分法適用会社に対する持分相当額	10	55
その他の包括利益合計	673	3,733
四半期包括利益	5,714	10,945
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,170	10,143
少数株主に係る四半期包括利益	544	803

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	フィルム・ 機能樹脂 事業	産業 マテリアル 事業	ライフ サイエンス 事業	衣料繊維 事業	不動産 事業	計				
売上高										
外部顧客に 対する売上高	104,540	51,391	18,097	57,372	2,818	234,218	15,074	249,292	—	249,292
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	—	131	65	144	957	1,297	8,482	9,779	△9,779	—
計	104,540	51,522	18,162	57,516	3,775	235,515	23,557	259,072	△9,779	249,292
セグメント利益 又は損失(△)	5,919	3,450	2,495	△686	1,240	12,417	743	13,160	△2,353	10,806

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建物・機械等の設計・施工、情報処理サービス、物流サービス等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,353百万円には、セグメント間取引消去△215百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,138百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない基礎的研究に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	フィルム・ 機能樹脂 事業	産業 マテリアル 事業	ライフ サイエンス 事業	衣料繊維 事業	不動産 事業	計				
売上高										
外部顧客に 対する売上高	111,623	51,456	19,563	56,743	2,877	242,262	15,216	257,478	—	257,478
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	29	122	74	153	914	1,292	10,934	12,226	△12,226	—
計	111,652	51,578	19,637	56,896	3,791	243,555	26,150	269,705	△12,226	257,478
セグメント利益	6,129	3,710	3,821	2,203	1,347	17,210	599	17,808	△2,482	15,327

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建物・機械等の設計・施工、情報処理サービス、物流サービス等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△2,482百万円には、セグメント間取引消去△350百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,132百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない基礎的研究に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。